

「自ら考え、進んで表現できる児童の育成」 ～算数的活動の充実を図る指導の工夫を通して～

I 研究内容

1 研究内容と方法

(1) 研究内容

- ア 理論研究（算数的活動に関わって）
- イ 授業実践および授業公開の実施
- ウ 一人一実践の取り組み
- エ 児童の実態把握（学習アンケート等）
- オ 基礎・基本の定着のための日常的な取り組み
- カ 学習規律・学習環境づくりのための日常的な取り組み

(2) 研究方法

- ア 全体研究会とブロック研究会を取り入れた研究体制で研究を行う。
- イ 講師を招いて、児童の実態にあった理論研究を行う。
- ウ 授業研究をし、授業公開を行う。
- エ 児童に、研究内容に関わるアンケートを行い、児童の実態や変容について把握する。
- オ NRT検査やQ-U等から児童の実態を把握し、具体的な指導法を研究する。

2 具体的な取り組み

(1) 学び合い活動

- ア **問題解決型学習等における学び合い**
◇ペア学習・少人数学習から全体へ
→自分の考えを相手に説明する活動
- イ **発表時における学び合い**
◇小グループでの話し合いから
→グループで意見をまとめる→複数の意見の類似点や相違点に気づく

(2) 表現活動

- ア **書く活動**
◇自分が考えたことを、言葉・図・式などを用いて表現する。
◇自分の考えを、発表ボードなど、ノート以外のものにも書く。
◇学習感想を書く。

(3) 掲示物の工夫

- ア 授業時に「めあて」と「まとめ」を提示する。
- イ 各学級に掲示するものを一部共通化する。

(4) Q-U分析

- ア **全校プロット図の作成**
◇第1回の結果を受け、全校児童のプロット位置を確認し、全校プロット図を作成。
- イ **各学級ごとのQ-U分析**
◇ヘルプサイン・ポジティブチェック、K-13法（簡易版）を取り入れたQ-U分析を実施。ブロック研究会ごとに検討会を行い、各学級の実態に応じた取り組みを実践。

3 具体的実践

(1) 学習会

- 「思考力を高める算数的活動の効果的な指導法について」
講師：山梨大学大学院 一瀬孝仁准教授

(2) 実態調査

- 5月 算数科に関わる学習アンケート1回目実施
- 2月 算数科に関わる学習アンケート2回目実施

(3) 授業実践

ア 研究授業

- ・ 第3学年 佐野誠一教諭 算数科 「はしたの大きさの表し方を考えよう」
指導助言：山梨大学大学院 中村享史教授
- ・ 第4学年 中村亮二教諭 算数科 「わり算の筆算を考えよう」
指導助言：山梨大学大学院 一瀬孝仁准教授

イ 授業公開（一人一実践）

- ・ 第1学年 新海小緒里教諭 算数科 「たし算」
- ・ 第2学年 金井京子教諭 算数科 「かけ算」
- ・ 第5学年 古屋ゆか教諭 算数科 「比べ方を考えよう」
- ・ 第6学年 原藤生府教諭 算数科 「速さの表し方を考えよう」
- ・ たんぼぼ 酒井尚子教諭 算数科 「わり算の筆算を考えよう」
- ・ コスモス 内田俊彦教諭 算数科 「どちらがひろい」
- ・ 専科 早川千尋教諭 図画工作科 「カラフルフレンド」

II 成果と課題

1 成果

- (1) 講師を招いての学習会では、内容が具体的でわかりやすく、学力向上や授業改善に向けて研究を深めることができた。
- (2) 授業における「めあて」と「まとめ」の提示や、学級掲示の共通化などにより、同一歩調で学力向上に向けての指導ができた。
- (3) 発表用のホワイトボードを作成し、授業の中で活用したことにより、書いて表現することへの意欲が向上した。意見の共有化にも有効であった。
- (4) Q-U検査の結果を学力向上や日々の学級経営に効率的に生かすことができた。
- (5) ペア学習やグループ学習などの学び合い活動や、発表の仕方を工夫した表現活動などに日常的に取り組んだことで、それらが児童に定着している様子が見られた。
- (6) 研究授業では、授業者が研究の方向性を意識した授業展開を図り、どちらも検証授業として生かされる内容で、日々の実践に役立てることができた。
- (7) 一人一実践の取り組みでは、様々な授業を参観することができて、手立てや指導法など、とても参考になった。
- (8) 2度にわたる学習アンケートやQ-Uアンケートの実施により、児童の実態や変容を把握することができたことは、大変有意義で、以後の対応や指導に役立てられた。

2 課題

- (1) 「自ら考え、進んで表現する力」を高めるための、より具体的な手立てや指導法について、研究を深める。
- (2) 学習習慣や学習規律をさらに身に付け、定着させるための取り組みを工夫していく。

III 成果物

- 1 研究授業及び公開授業の指導案9点
- 2 算数科に関わるアンケート結果（2回実施）
- 3 Q-Uアンケート結果（2回実施）および全校プロット図

（研究主任 金井京子）